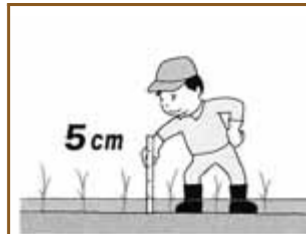


除草剤の上手な使い方



整地、代掻きは丁寧に

田面が露出していると除草剤の効果が十分に発揮できません。



処理時の水深は3～5cm

十分な水深を保つことで除草剤の効果が安定します。



落水、かけ流しはダメ!!

薬剤処理層を安定させるため、処理後1週間は落水もかけ流しも行いません。



処理後の水管理を十分に

散布後は田面を露出しないような水管理を。ただし、かけ流しは行わない。

除草剤の選び方

～あなたの田んぼにこんな雑草ありませんか?～



ホタルイ コナギ オモダカ イボクサ クサネム クログワイ

初 期 剤	剤	量
キルクサ	1 [※] 粒	1kg/10a
ソルネット	1 [※] 粒	1kg/10a
マーシット	1 [※] 粒	1kg/10a
ダッシュワン	1 [※] 粒	1kg/10a
サキドリE W	500mℓ/10a	
ベクサーフロアブル		
ノビエ1葉期まで		



初 中 期 一 発 剤	剤	量	時期	
2 成 分 剤	エーワン	1 [※] 粒	1kg/10a	移植後5日～ノビエ2.5葉期
	エーワンフロアブル	500mℓ/10a		〃
	エーワンジャンボ	300g/10a		〃
	ゲットスター	1 [※] 粒	1kg/10a	〃
	ゲットスターフロアブル	500mℓ/10a		〃
	ゲットスタージャンボ	300g/10a		〃
ノビエ 2.5 葉 期 まで	バンチャー	1 [※] 粒	1kg/10a	移植後5日～ノビエ2.5葉期
	シリウスターボ	1 [※] 粒	1kg/10a	〃
	スパークスター	1 [※] 粒	1kg/10a	〃
	バッチリ	1 [※] 粒	1kg/10a	移植時～ノビエ2.5葉期
	クサトリ-DXジャンボH	400g/10a		移植後3日～ノビエ2.5葉期
	イノーバDXアップ	1 [※] 粒	1kg/10a	移植時～ノビエ2.5葉期
ノビエ 3 葉 期 まで	イッポン	1 [※] 粒	1kg/10a	〃
	トップガン	250g/10a		移植直後～ノビエ2.5葉期
	トップガンGT	1 [※] 粒	75kg/10a	移植時～ノビエ3葉期
	トップガンフロアブル	500mℓ/10a		移植時～ノビエ2.5葉期
	ジョイスター-A	1 [※] 粒	36kg/10a	移植後5日～ノビエ3葉期
	ジョイスターフロアブル	500mℓ/10a		〃
トレディワイド	1 [※] 粒	1kg/10a	〃	
アピロスター	1 [※] 粒	1kg/10a	移植直後～ノビエ3葉期	

草種により適する薬剤が異なるので、除草体系等についての相談は各指導機関へどうぞ。

〈味にこだわる「秋田おぼこ米」〉

昨年は、高温多雨など気象に振り回された年でした。不順な天候を克服するためには、基本技術の励行が重要です。特に、総合的な土づくりは、日照不足、高温・低温年、台風等の気象災害に影響されにくい稲作りには欠かせません。このため、有機物の施用、排水対策、土づくり肥料の施用、適正耕深の確保を実施します。土づくりと健康な苗づくりから今年の稲づくりを考えましょう。

土壌グループ別の土づくり（食味向上を踏まえて）

黒ボク土	良質な有機物施用 生ワラより良質な堆肥施用が好ましい ・リンサンの補給（おぼこの大地など）	灰色低地土	良質な有機物の施用 ・リンサンの補給（おぼこの大地など）
グライ土	良質な有機物施用堆肥連用はほ場では減肥する。 生ワラは秋耕で腐熟させる。強グライ土では生ワラ施用が食味値を低下させる。 ・リンサンの補給（おぼこの大地など） ・耕深は14cm程度まで ・排水対策	泥炭・黒泥土	有機物は完熟したもの以外使用しない。 生ワラは極力秋耕まで腐熟させる。 ・おぼこの大地の施用 ・耕深は16cm程度 ・排水対策

おぼこの大地施用基準 …… 10a 当たり60～80kg

【期待される効果】

- ① いもち病などの病害虫抵抗性が高まります。
- ② 稈が丈夫になり倒伏に強くなります。
- ③ 葉が直立して受光体勢が良くなり登熟歩合が向上します。
- ④ 玄米の生産効率が高まり、千粒重がアップして低タンパクになります。

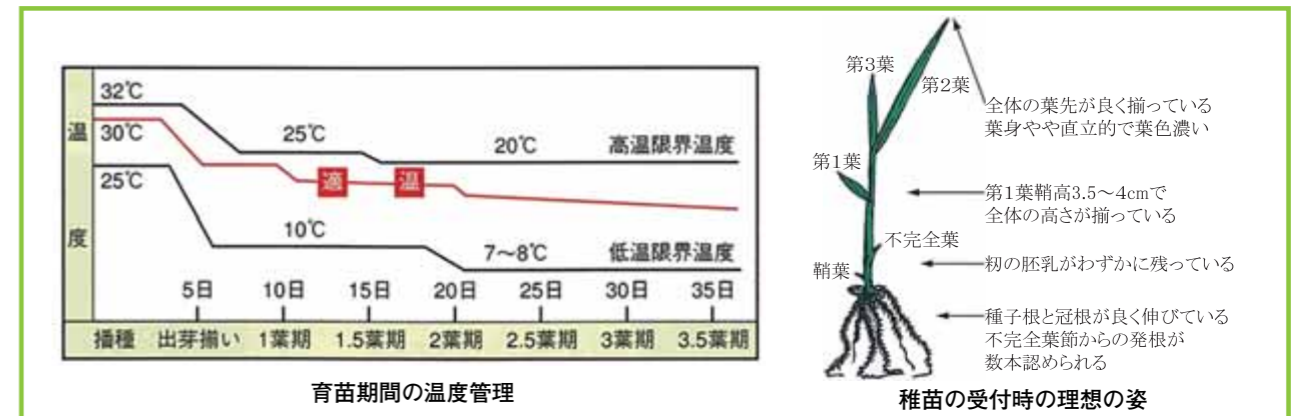
発行/秋田おぼこ農業協同組合 監修/仙北地域振興局農林部農業振興普及課
仙北農業共済組合

おいしいお米は苗づくりから

～気象変動に対応した温度管理をおこないましょう～

育苗後期の管理

育苗期は気象変動が大きいため環境変化に対応した温度管理に心掛けましょう。温度管理は、図を参考にして生育ステージに合わせて行ってください。



追肥は葉齢に応じて

	稚 苗	中 苗
1.5葉期	窒素 1 g	—
2.0葉期	—	窒素 1 g
3.0葉期	—	窒素 1 g

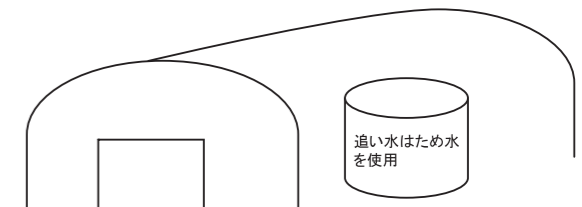
※ 1箱当たり

肥料名	区分	現 物 量	窒素成分	水 の 量
硫	安	5 g	1.0 g	0.3 ℓ
液 肥	2 号	10mg	1.2 g	1 ℓ
サイコー	12 号	8 g	1.0 g	なし

※ 硫安の場合は追肥後直ちに散水して葉に付いた肥料分を洗い流し、肥料ヤケを防止します。

水 管 理

育苗後半は、水分要求が大きく、かん水が不足した場合、葉がよじれてきます。極端な場合、枯れてしまいますが、日中かん水をする場合は、ハウス内にオケ・水槽などに貯め水し、苗床温度と水温の差を少なくした水で追い水をします。(温度差が大きくなれば、立枯病発生の原因になる。)



NOSAI仙北から

農機具共済

《春期》加入運動実施中!

- 1台当たり2,000万円まで加入OK!
- 新品価格までの加入が大事です。

稼動前に

※点検と
※加入で

ゆとりの農作業を…



苗立枯病の見分け方

～苗立枯病は地際部からの発生がほとんどです。地際部の確認を!!～



リゾプス菌

育苗箱の、種子層にやや太く白い菌糸がはこびり、床面にも繁殖します。出芽不良、生育不良、根の発育不良を引き起こし、ひどいものは枯死します。



フザリウム菌

発芽直後から発生し、根および苗の地際部が褐変腐敗し、地上部は萎凋し、後に黄化して枯死します。白色あるいは紅色の粉状のカビが生えることが多いです。

防 除 対 策		
ダコニール 1000	500～1,000倍	500ml/箱
ベンレート水和剤	600倍	500ml/箱
ダコレート水和剤	400～600倍	500ml/箱

防 除 対 策		
タチガレエース液剤	500倍	500ml/箱



ピシウム菌

出芽後間もない時期に茎の地際部が水浸状に褐変し、急激にしおれ枯死する。地際にカビの発生は見られないが、坪枯れ状に枯死する。



トリコデルマ菌

はじめ覆土の表面や種初周囲に白カビが見られ、後に青緑色になる。菌のついた種初は発芽が悪く、後に褐色枯死する。

防 除 対 策		
ダコレート水和剤	400～600倍	500ml/箱
ベンレート水和剤	600倍	500ml/箱

防 除 対 策		
タチガレエース液剤	500倍	500ml/箱

割れ粉や脱ぶ粒混入による苗立枯病予防を

今年の種モミには割れ粉や脱ぶ粒の混入が目立つケースがあります。混入が気になる場合は、以下の苗立枯病防除をおすすめします。

使用時期	薬剤名	使用量
播種時または出芽後	ダコニール 1000	500～1000倍液（1箱当たり500cc）

育苗箱施用剤（殺菌・殺虫）の使用にあたって

薬剤名	対象病害名							施用量	使用時期
	いもち病	紋枯病	イネメイシ	イネトビイシ	イナゴ類	ニカメイチュウ	ウンカ類		
グランドオンコル粒剤			○	○			○	50g/箱	移植3日前～移植当日
Dr.オリゼプリンス粒剤6	○		○	○			○		緑化期～移植当日
デジタルコトップアクタラ箱粒剤	○		○	○			○		移植3日前～移植当日、ニカメイチュウは移植当日
ブイゲットバリアード粒剤	○		○	○			○		〃
Dr.オリゼプリンスエース粒剤	○		○	○			○		緑化期～移植4日前
嵐プリンス箱粒剤6	○	○	○	○	○	○	○		床土混和又は播種時(覆土前)～移植当日

注：嵐剤の50g/箱処理は次の地区では使用しないようにしましょう。

- 採種圃がある地域（旧市町村単位又はそれに準じる地域）。
- ①以外で採種圃に隣接する地域。
- ①、②の範囲については最寄りの指導機関へ相談して下さい。

ばか苗病の発生に注意!!

採種圃場から500m以内で「ばか苗病」が発生すると、当該採種圃場が検査により種子として不合格になってしまいます。もし、採種圃場周辺に田植え予定の苗で、ばか苗病の発生がみられた場合は、抜き取らずにすぐに最寄りの各指導機関へご連絡ください。

耕深の確保

耕起はできるだけほ場が乾いた状態で行い、耕深15cmを確保する。（白未熟粒の発生を未然に防ぐ）また、深耕の効果は適度な透水を伴ってはじめて期待できることから、代かきは耕深よりも浅くする。

粘土質ほ場では過度の代かきは作土下層の透水性を阻害するほか、土壌還元促進や表層剥離の原因になるので注意する。一方、漏水田では深めの代かきで漏水防止を図る。なお、代かきは浅水で行い、稲わらや稲株を埋没させる。

適期田植と適正な栽植密度の確保

田植は、日平均気温で稚苗13℃、中苗14℃以上の日に行う。できれば日中の最高気温20℃以上の日に実施し、最高気温15℃以下の日は行わない。

活着を良くするため老化苗に注意し、適正な葉齢で田植する。

苗の1株の植え付け本数は、稚苗で4～5本、中苗で3～4本とする。

初期の分けつを安定的に確保するため、植え付けの深さは稚苗2cm、中苗は2.5cmとし、3cm以上の深植えにならないように注意する。

坪当たり株数は70株を基本とし、主茎と3～6号分けつを主体として6月25日頃までに穂数を確保する。

平成23年いもち病対策を紹介します

～いもち病防除は育苗期防除の実施が重要です!!～

